園長先生の子育てひろば

令和４年５月

ポナペのバナナ

園長　山中　文

ポーナペッのバナナ　パーナッチョペーナッチョ

ポーナペッチョポーナペッチョ　ナッチョナッチョピッ！

この唄をご存じですか？　もうずっと前に、何人かで唄われているのを聞いて適当に覚えたので、歌詞はまちがっているかもしれません。リズミカルな感じが面白くて、今でも、適当に節をつけて時々口ずさんでいます。

この唄、乳児さんのおむつ替えやごきげんよく手足をバタバタさせている時などに、ほっぺや手足を人差し指で軽くつっつきながら唄うと、よく喜んでもらえます。最後の♪ピッ！♪のところで、鼻にピタッと指を止めますと、その箇所を期待していたような感じで笑ってくれます。

2歳児さんに唄ってみることもあります。まだリズムを同期させるのがむずかしいころなので、大人と一緒に口ずさむことはできませんが、何度か体で揺らしながら唄っているうちに、最後の♪ピッ！♪を待ち受けて、そこだけそろって♪ピッ！♪と唱和するようになってきます。そんなときは、♪ナッチョナッチョ♪のところで身振りを大きくして、少し間をあけて、最後の♪ピッ！♪をしっかりと決め、大笑いしたりします。

このような様子を見ると、乳児さんたちは、その歌を覚えられなくて歌えないのではないことがわかります。まだ長く同期することはできないけれど、どこかで合わせられるところをねらって期待をしたりタイミングをはかったりしているようです。この唄は、ちょうど最後の♪ナッチョナッチョ♪のところが助走のようになって、ちょうど♪ピッ♪で着地するように、うまくできているのでしょう。

こんな風にリズムの同期を感じながら最後に期待感を持たせる歌は、乳幼児期の歌によく見られます。よく知られた「東京都日本橋」などのわらべうた遊びもそうでしょう。

♪東京都♪（軽く相手の手の甲をたたく）

♪日本橋♪（2本指で軽く手の甲をたたく）

♪がりがりやまの♪（手の甲をそっと掻く）

♪つねこさん♪（手の甲をそっとつねる）

♪階段のぼっておりてきて♪（腕の方へ2本指で登ったり降りたりを繰り返す）

このあと、全身をこちょこちょするといった遊びです（地方によって歌や遊びは異なります）。これも最後には全身をくすぐられるのに、期待を持って待ってくれますね。

不思議なことに、機械的な繰り返し音などには、乳児さんは同期しようとするような反応を見せません。何らかのメッセージを持って自分にかかわってきているというところから同期がみられるようになり、メッセージから期待するところを感じ取っていくようです。

乳児さんに抑揚をつけてリズミカルに話しかけるのは、大きな意味があることですね。